

インクルーシブの窓

令和8年2月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



特別支援教育コーディネーターリーダーの真摯な取組を紹介します！その④



昨年11月に行われた特別支援教育コーディネーターリーダー研修会に参加された先生方の取組紹介の4回目です。

卒業後の就学について保護者と合意形成を図る機会をもつために、担任と一緒に面談を行った。また、同じ中学校区の特別支援教育コーディネーターと、中学校見学の時期や内容等を情報共有した。(小学校)

「つないで支援に生かす」ことを大切に、幼保小や小中の連携、家庭や専門機関との連携に取り組んだ。(小学校)

支援が必要な子供の実態把握と校内及び幼保との連携に努めた。校内委員会の記録を整理し全教職員で共通理解を図った。(小学校)

ファシリテーターとして、情報整理や共有、教職員が発言しやすいケース会議等の環境づくりに努めた。(中学校)

要請のあった小・中学校を訪問し、授業参観やケース会議を通し、児童生徒の実態把握と行動の背景を一緒に考えた。また、地域の小学校へ学びの場を変更した児童のアフターフォローを行った。(特別支援学校)

地域支援で行うケース会議において、「子供の実態把握や見立てが大事」ということを伝えてきた。地域の学校のニーズに沿ったケース会議の在り方を検討してきた。(特別支援学校)

他校より転入した生徒の支援では、情報の収集と整理、その共有に取り組んだ。生徒には、ほめることを意識した関わり、話を聞く機会を作ることを大切にされた。(特別支援学校)



地域ごとのグループ協議も行いました。

子供の安心安全の土台づくりのために、「〇〇(校名)っこのやくそく」を全教室に配布し、授業づくりの研修を行った。また、アセスメントや支援グッズの提案、スクールカウンセラーと連携した校内研修を行った。(小学校)

個別の教育支援計画の作成に向けた保護者との面談の仕方についての模擬動画を作り、ていねいに面談が進められるように、教員間で共通理解を図った。(小学校)

生徒に関する情報を的確に共有し、校内支援体制がより効果的に機能するように、校内委員会で使用する書類のフォーマット作成に取り組んだ。(中学校)

校内で共通理解が必要と考えられる生徒について、ケース会議の開催を提案した。その際、特別支援学校コーディネーター連絡会で行った模擬ケース会議資料を用いて共通理解を図った。(特別支援学校)

生徒向け啓発リーフレットを作成して希望する中学校に配布するなど分かりやすい情報提供を心がけた。また、就労支援のセンター校としての本校の役割をまとめたリーフレットを活用し、高等学校との情報交換を行った。(特別支援学校)